

第2回横須賀市立小中学校適正配置審議会の概要について

1 田浦地域

(1) 通学や通学路について

- 平面上は距離的に問題がないように見えますが、例えば車で横須賀から追浜まで向かうには、いくつものトンネルを通りながら国道16号線を走ることになります。

また、その国道16号線の歩道もかなり狭い状態であり、これらを一つ一つクリアしなければならない点で、田浦はかなり特異な地域であると思っています。安心と安全の点から見ても、通学するにはリスクが非常に多いところだと思います。

それについては、スクールバスなどさまざまな手当をすることで、安心で安全なところにしていくという保証は取らないといけないと思います。

そのような意味で、山の中で細い道がどのようにつながっているのかどうかも踏まえながら結論を出していくようにしていかなければいけないと思いました。

- この場でどちらかを選ぶ訳ではないですが、やはり田浦小学校区を長浦小学校区に編入するという方が一番現実的だと思っていますので、今後も協議会を進めるに当たっても、通学路に関する安全確保の提示が一番重要になると思います。

- 通学路について、保護者をはじめ地域の方は交通事故、不審者、犯罪について心配に思っていますので、このことへのケアが必要です。

(2) 建て替えについて

- さまざまな議論があって今に至っていると思いますが、やはり一番大きいのは、児童数の問題もありますが、建物の老朽化問題が出てきます。

例えば、田浦小学校は築69年と突出していますし、その次に古いのが築63年という状況の中である程度方向性を決めていると思いますが、それ以外の学校についても、10年経てばまた同じ轍を踏むようになると思います。今回の統合も含め、このことを考えていかなければいけないと思います。

当然、地域との配分の問題、人数の問題も絡みますが、学校とは言え、築60年を超える建物を維持していくことは、危険性の問題、建物の補修管理の問題など、プラスになるようなものがないと思います。

皆さまにおいてもそのように考えていると思いますので、ぜひ、住んでいる方が今思うことと、10年後とではまた違ってくると思いますが、丁寧に説明していった方がよいと思いました。

（３）方策等について

- 小中一貫の学校にしたときに、元々あった全ての課題が解決するのだろうか。
横須賀は小中一貫教育を行っていますので、小学校と中学校の連携を大切にしていますが、だからといって同じようなところで併設型の学校にしたときに、また別の課題が生じてくるだろうと思います。

（４）地域について

- 連合町内会と通学区域との兼ね合いについて検討していかなければいけません
が、そもそも、山を切り開いて団地を開発する時点でこのような問題はあったはず
であり、その際にもう少し細かく通学区域の検討とその連合町内会との関係の構築
をしておけば、ここまでは至らなかったと思います。
今後、このような開発が行われる時に、通学区域と町内会の組織の在り方を一緒
に検討していかないと、今回と同様の問題が出てしまいます。
開発が行われる際には、やはりその部分から着手していくことを検討してい
ただきたいと思います。
- 子どもたちのコミュニケーション能力と友人関係のさらなる向上に向けた体制
作りについて、自治会と学校がうまく融合できていけば進められるのではないかと
思っていますので、ぜひご検討いただきたいです。

2 両地域共通事項

(1) 学校運営について

- 教科学習について、現在の児童数では、学習指導要領と市の施策に基づく学習活動ができなくなっていることをどのように考えていけば良いのかというところだと思います。

例えば、体育の授業でサッカーやバスケットボール等のボール運動は人数がいなければできないことですし、集団と集団、そして同じ発達段階にある同学年同士の子どもたちが体を動かしながら学んでいく授業となります。音楽における合唱と合奏もそうですが、学校と教師の努力だけではどうしても難しい点ですので、この点について、保護者の方々がどのように考えているかという部分もあると思います。

それから、今はどの学校・教科においても、さまざまな意見と考え方に触れ、そこで小グループとクラスで意見を共有し、そこから知識と技能を結びつけていくという授業を行っています。これは学び方が変わってきているということですし、小規模校においてどのように対応していくのだろうかと思います。

- 多様な人々と協働する力の育成について、どの教科においても互いに児童が啓発され、学びを広げたり深めたりする中で学習が行われていますが、これが実現できるような環境で学ぶことは非常に重要なことだと考えます。

今後の子どもたちは、今よりもさらに予測のつかないような変化の激しい社会の中で生きていくわけですので、その場合に、立場、考え方、価値観の異なる人たちとどのようにしてより良いコミュニケーションをとり、たくましく生きていくのかという点において、この辺りが課題になると思います。

- 学校運営について、小学校6年間の成長を考えますと、1学年に複数の学級があることが望ましいです。学級編成をある程度考慮できる状況にあることは、多くの子どもにとって望ましいと思いますし、実際にさまざまな人間関係の中で苦しさを感じ、実際に、単学級ではない別の学校に転校したいとの相談を何度か受けたことがあります。

また、教員の指導力の向上という点でも複数の学級があることが望ましいです。どの学級も安定した経営を行うには、学年経営がとても重要となります。複数の教員で子どもたちを多面的に見て、指導方法を検討しながら関わっていくことで、若手の教員は先輩の教員から大変多くのことを学び、学校の総体としての指導力と教育の質の向上につながっていくのではないかと考えます。

(2) 通学や通学路について

- 通学と通学路における安全の担保が重要だと思いますし、この部分がある程度見えてこない地域としては話が進まないだろうと思いました。現状でこのように対応するということを示すのは難しいのかもしれませんが、例えばバスの通学が自費になるのか、スクールバスになるのか、その辺りの具体案が出てくると、より現実味を帯びてくると思います。
- 市だけで安全性の担保をすることは難しいと思います。協議会でもご意見が出ている通り、地域全体の安全性を高められるよう、国と県に働きかけをお願いしたいと思います。
- スクールバスや通学定期の支給等通学費用の無料化の対応をした場合、既存の学校では行っていないわけですので、公平性の原則を踏まえたときに、特定の者への行政サービスということになってしまいます。それが適切なことであれば良いわけですが、一方で今後の対応として、今回の問題について対応すると、公平性の原則から、適正配置に向けた検討にある程度影響してきます。税金の使い方あるいは教育の適正化との観点でどのようにバランスを取るかを考えると非常に難しい問題ですが、地域のご意見がありますし、こうしたご意見は大事ですけれども、そこを踏まえた確固たる考え方を持つ必要があると思います。
- 今、通学区域を制定している中で適正配置というとり方をされていると思いますし、これまでも小・中学校、地域単位で進めてきました。
ただ、今後少子化がさらに進む中でその地域の範囲をもう少し広げたものにしていかないと、今後もこのような検討の場が多く出てくると思います。

(3) 地域について

- 連合町内会で一番課題となっているのは、住民の高齢化の問題と、次世代の子どもたちに対してどのようにして町内会の活動に関わってもらおうかということです。